

## 2023年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH283
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 3
学期	2023年度後期
単位	1.0
担当教員	行田 直人 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この講義では、柔道整復施術の臨床経験豊富な教員による、主に上肢の手指から肘関節までの骨折損傷を教授する。それら診断法・鑑別診断・整復法・固定法および後療法を教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床現場の経験豊富な本学教員（柔道整復師）が、骨折に関する判断や鑑別、整復・固定などを臨床経験を踏まえて教授する。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる臨床現場で実践可能な知識を身に付けるため、下記の項目を到達目標とする。また本講義は臨床経験のある柔道整復師が行う。 1. 各骨折の概説、概要、非観血的な整復法および固定法を理解し、実践できる能力を身につける。 2. これまでに学んだ解剖学、生理学の知識と本講義で関係する内容についての結びつきを理解し、各骨折についての理解を深める。
計画・内容	担当：行田（柔道整復師） 1) 前腕骨骨折1 担当教員：行田 予習：橈骨近位端骨折、肘頭骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 2) 前腕骨骨折2 担当教員：行田 予習：橈・尺両骨近位端部骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 3) 前腕骨骨折3 担当教員：行田 予習：橈骨骨幹部骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 4) 前腕骨骨折4 担当教員：行田 予習：尺骨骨幹部骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 5) 前腕骨骨折5 担当教員：行田 予習：橈・尺両骨骨幹部骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 6) 前腕骨遠位端部骨折1 担当教員：行田 予習：橈骨遠位端部骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 7) 前腕骨遠位端部骨折2 担当教員：行田 予習：尺骨遠位端部骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 8) 前腕骨遠位端部骨折3 担当教員：行田 予習：橈・尺両骨遠位端部骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 9) 手・指の骨折1 担当教員：行田 予習：手根骨骨折（舟状・月状骨）の概要を把握 復習：予習に同じ 10) 手・指の骨折2 担当教員：行田 予習：その他の手根骨骨折の概要を把握 復習：予習に同じ 11) 手・指の骨折3 担当教員：行田 予習：中手骨骨折（骨頭部・頸部骨折）の概要を把握 復習：予習に同じ 12) 手・指の骨折4 担当教員：行田 予習：中手骨骨折（骨幹部骨折、第1、第5中手骨基部骨折）の概要を把握 復習：予習に同じ 13) 手・指の骨折5 担当教員：行田 予習：指骨骨折（基節骨、骨幹部骨折）の概要を把握 復習：予習に同じ 14) 手・指の骨折6 担当教員：行田 予習：指骨骨折（中節骨、末節骨骨折）の概要を把握 復習：予習に同じ 15) 総合復習 担当教員：行田 予習：各骨折の概要、転位方向、固定・整復法を把握 復習：予習に同じ

## 2023年度

計画・内容	他の部位の損傷に関する柔道整復専門科目講義・実技と結びつける学習を心がけること。 遅刻・早退・欠席をする場合には、事務室にある理由書に記入し提出すること。 理由書のない遅刻・早退は欠席となる。
授業の進め方	教師が用意した教材（スライド教材含む）や柔道整復学理論編教材などを元に授業を進めていく。授業の進行にあわせて適時、本講義の理解の他、関連する解剖学、生理学の理解を深める。期末試験には、配布教材や柔道整復学理論編教材などの範囲内で出題する。 コロナウイルスの状況から、本講義はcampus square上での課題学習、オンライン講義等で行う。
能動的な学びの実施	確認テストとその解説を適時行い理解度の振り返りを行う。 毎回講義で配布された資料を再理解に努め、ポイントとなる項目を中心に自分なりにまとめておくこと。
授業時間外の学修	予習・復習は、各授業毎に習った内容について、合計15時間以上行うこと。 予習：講義終了後に予習内容を通知する 復習：講義にて特に重要な箇所を指示する。
教科書・参考書	教科書：柔道整復学理論編 第7版（南江堂）。 参考書：柔道整復外傷学ハンドブック 総論（医道の日本社）。 その他使用する教材は、教師が用意する。
成績評価方法と基準	評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度を問う内容である。 評価は、期末試験（100%）により行う。（小テストを実施した場合には、小テスト（20%）および期末試験（80%）により行う）
課題等に対するフィードバック	期末試験での成績の悪い学生には問題点を指導する。 毎講義において指導が必要な学生には、適時個別に指導を行う。
オフィスアワー	campus squareを参照すること。
留意事項	筆記用具、ノート、教材や資料を保管するためのA4版のファイルを、各自準備すること。 他の部位の損傷に関する柔道整復専門科目講義・実技と結びつける学習を心がけること。（これまで学んだ柔道整復学の知識が必要である）
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 掲示機能を用いた定期試験100%により評価する。